

第 149 回

中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 28 年 7 月～9 月実施
平成 28 年 10 月～12 月予測

福岡県商工会連合会

この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 28 年 9 月 1 日 (木)
3. 調査対象時期 平成 28 年 7 月～9 月
4. 調査対象企業 久山町・太宰府市・宗像市・大刀洗町・八女市・大木町・遠賀町・築上町・小竹市・添田町の 150 企業
5. 回答企業 150 企業 (有効回答率 100%)

製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
29	19.3%	22	14.7%	44	29.3%	55	37.5%

☑ 県下産業全体 (業況・売上額 D.I)

➡ **まだまだ厳しい状況であるが、製造業を除き全体的に回復の兆しも見える福岡県の中小企業景況**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 27 年 7 月～9 月		△10.7		△20.0		△16.7		△15.8
平成 27 年 10 月～12 月		△28.6		△22.8		△14.0		△10.7
平成 28 年 1 月～3 月		△10.8		△27.2		△7.3		△16.1
平成 28 年 4 月～6 月		△20.7		△0.0		△9.1		△20.0
平成 28 年 7 月～9 月		△13.8		31.9		△25.0		△20.0

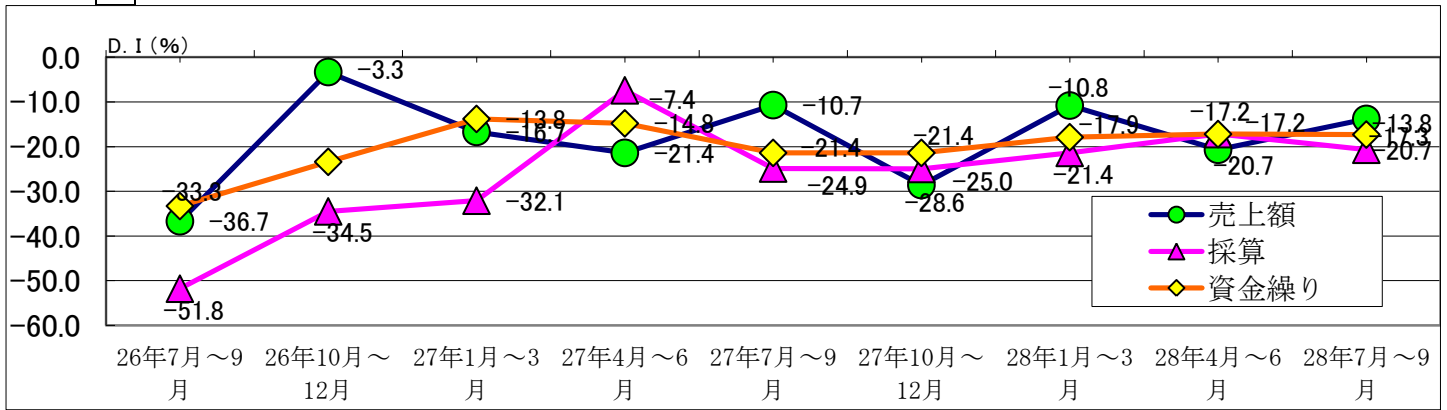
<天気図の見方>

D. I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	【快晴】 +30.1 以上	【晴れ】 +10.1 ～30.0	【曇り】 △10.0 ～10.0	【曇り】 △30.0 ～△10.0	【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D. I を前年同期 (平成 27 年 7 月～9 月) の D. I 値と比較すると売上額 (建設業は完成工事額) は 3.1 ポイントの改善、採算は 4.7 ポイントの改善、資金繰りは 2.0 ポイントの改善となり、全ての D. I 値が改善している。また、前回調査時 (平成 28 年 4 月～6 月) の D. I 値と比較すると売上額は 1.4 ポイントの悪化、採算は 0.8 ポイントの改善、資金繰りは 6.6 ポイントの改善となっている。

製造業 (有効回答数 29 企業)

➡ **一部に受注増の動きがみられるものの、依然コスト高に苦しむ製造業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

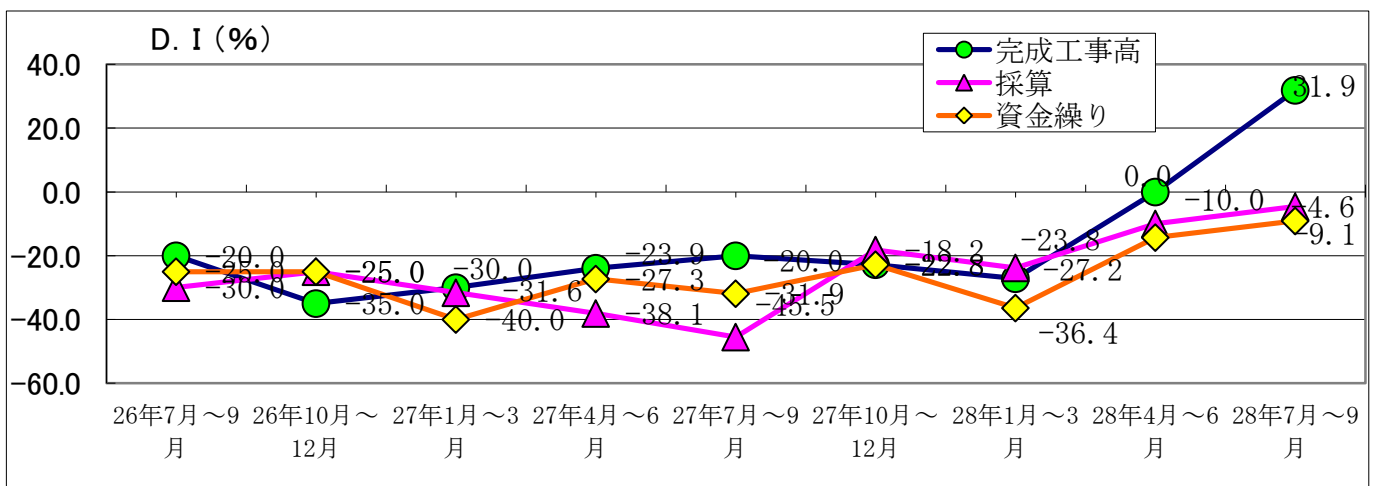
- ・店舗売上では経営難の為、ネットでの販売が必要。(菓子製造業)
- ・熊本、大分地震で職人さん達がそちらに行っているの、福岡での仕事が少ない。(鉄工業)
- ・小売店、飲食店への卸売りは、引き合いも増え好調であるが、既存の店頭販売と違うため、労働コストがかかり売上の上がり方ほどの利益上昇が見られない。(醤油製造)

<経営上の問題点>

前期			今期		
第1位	製品(加工)単価の低下	21.4%	第1位	需要の停滞	25.0%(+10.7)
第2位	需要の停滞	14.3%	第2位	生産整備不足・老朽化	17.9%(+14.3)
第3位	製品ニーズの変化	10.7%	第3位	従業員の確保	17.9%(+7.2)

建設業 (有効回答数 22 企業)

➡ **年度末の受注はあるものの、資材価格高の影響で収益が悪化した建設業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

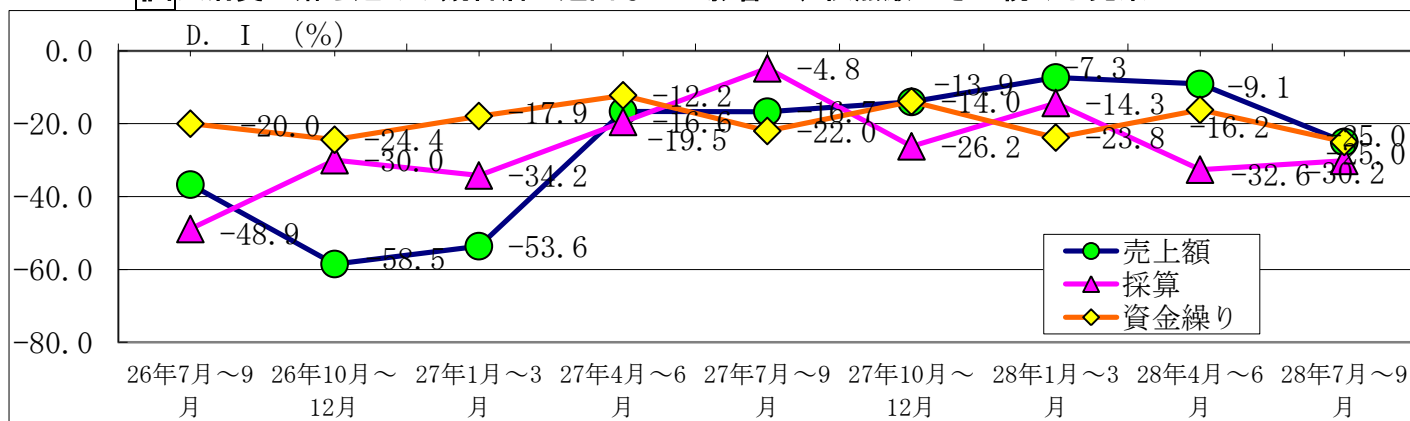
- ・受注が安定していないので、先が見通せない。(鉄骨・鉄筋工事業)
- ・熊本の地震関連で、商品(給湯器)の仕入れが間に合わずお客様の工事が1ヶ月以上遅れた。(内装工事業)
- ・熊本地震で見られた木造住宅等の倒壊は、我々小規模工務店に対する消費者の印象を悪化させたと思う。今後消費者は、増々ハウスメーカーへ流れると思われるので、会社の方向性を早急に計画、実行したい。(木造建築工事業)

<経営上の問題点>

前期			今期		
第1位	民間需要の停滞	21.1%	第1位	材料価格の高騰	21.1%(-)
第2位	材料価格の上昇	21.1%	第2位	官公需要の停滞	15.8%(-5.3)
第3位	請負単価の低下、上昇難	10.5%	第3位	民間需要の停滞	10.5%(-10.6)

☑ 小売業 (有効回答数 44 企業)

➡ **個人消費の落ち込みや競合店の進出などの影響で、依然厳しさが続く小売業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

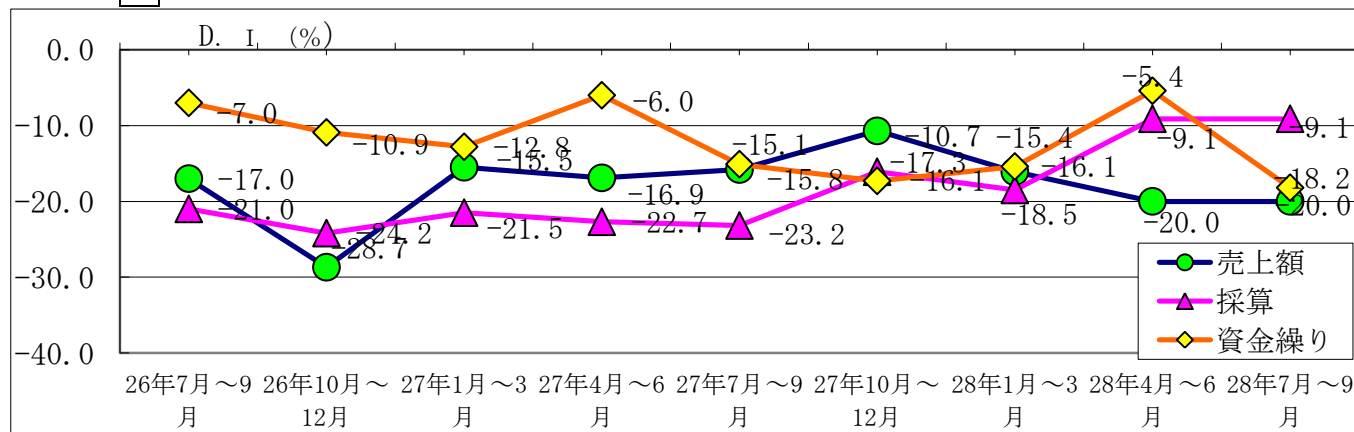
- ・大型店の進出により売上に影響が出ている。(酒小売業)
- ・高齢化による固定客の減少。仕入れ単価に上昇と低価販売の大型店との格差。個人商店は高という固定観念。人口が年々減少する地元でどれだけ売上をのばせるか不安だ。(電気機械器具小売業)
- ・店売りは、年配の方への配達を積極的に行っている。(各種商品小売業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 23.3%	第1位	大型店・中型店進出による競争の激化 29.3% (+6.0)
第2位	消費者ニーズの変化 23.3%	第2位	消費者ニーズの変化 12.2% (-11.1)
第3位	販売単価の低下、上昇難 14.0%	第3位	需要の停滞 12.2% (+7.5)

☑ サービス業 (有効回答数 55 企業)

➡ **一部業種で改善の動きがみられるサービス業**



<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・流通業界全般に物量が低迷だ。関東・関西からの九州方面の荷動きが落ち込んでいる。九州内では、今後熊本復旧工事等で、荷動きがあるようだ。(道路貨物運送業)
- ・特に少子化の影響で受講者の減少が多いと思われる。(自動車学校・教習所)
- ・熊本地震の影響で、九州への旅行客が減っている。(ホテル・旅館業)
- ・お客様の利用スパンが長くなっているように感じ、家計の中での自分に使える金額をおさえている。(美容業)

<経営上の問題点>

前期		今期	
第1位	利用者ニーズの変化 28.9%	第1位	利用者ニーズの変化 27.7% (-1.2)
第2位	需要の停滞 13.3%	第2位	新規参入業者の参入 12.8% (+6.1)
第3位	従業員の確保難 13.3%	第3位	従業員の確保難 12.8% (-0.5)